

事例3 お囃子の学習を通したリコーダーを用いた音楽づくりの事例

○学年 第3学年

○領域・分野・題材名 A表現(3)音楽づくり「ちいきにつたわる音楽でつながろう」

○事例のポイント

- ①児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、【音色、リズム、速度、旋律、拍】である。
- ②様々な祭囃子を鑑賞したり、「唱歌」を歌ったりすることで、お囃子の音楽の特徴を感じ取りやすくし、地域に伝わる音楽に愛着をもたせ、親しめるようにする。
- ③お囃子の鑑賞を通して、その雰囲気や特徴を感じ取り音楽づくりに活かせるようにする。
- ④音楽づくりア、イ及びウの各事項(ア)において、見通しをもって、**即興的に表現する技能**を身に付ける。
- ⑤ICT端末を用いることで、主体的・対話的で深い学びを引き出す環境づくりをしたり、学び合いの場面で動画を共有したりする。

1 題材名 ちいきにつたわる音楽でつながろう(5時間扱い)

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は元気がよく、のびのびと大きな声で歌を歌う児童が多い。児童はこれまでに、「ひらいたひらいた」「なべなべそこぬけ」「あんたがたどこさ」などのわらべうたを通して日本の音楽に親しんできた。その中で、2年生の「なべなべそこぬけ」では、ミソラの3音と短いリズムパターンで伴奏づくりを経験している。また、「おまつりの音楽」では、音楽の仕組み(くり返し)を使っていくつかのリズムパターンを組み合わせ、太鼓のリズムをつくるといった音楽づくりを行ってきており、その際、太鼓の唱歌を歌ったり、和太鼓の演奏をしたりすることでお祭りの雰囲気を味わってきた。本校がある地域のお祭りでは、お神輿に合わせて子ども達が太鼓を演奏する地区があり、太鼓に対して「楽しい」「ワクワクする」といったイメージをもっている児童が多い。しかしながら、日本の祭り囃子の特徴である太鼓・笛・鉦といった楽器を用いた祭囃子を聴いたことのある児童は少なく、テレビなどで見たり聞いたりした程度の児童がほとんどである。また、3年生から始まったリコーダーの学習では、家に持ち帰って練習するなど大変意欲的で、ほとんどの児童がタンギングを行い、簡単な曲を演奏することができる。一方で、リコーダーの穴がうまく押さえられずに音が安定しない児童もいるが、1学期に比べるとずいぶんと上達が見られる。

(2) 題材について

本題材は、音色に注目しながらお祭りの音楽を鑑賞し、郷土に伝わる音楽に親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取ったり、ラ・ド・レの三つの音を使った旋律をつくったりすることをねらいとしている。教材は、和楽器(長胴太鼓・締太鼓・かね・ふえ)の楽曲や、ハ長調とは異なる雰囲気の音階を使った音楽づくりを扱う。また、表現と鑑賞の活動を関連させながら、日本の郷土の音楽に親しむことのできる構成となっている。

指導にあたっては、三つの異なるお囃子を聴き、使われている楽器の音色やリズムと曲想との関わりなどの特徴の違いを感じ取りながら郷土の音楽に親しめるようにする。また、唱歌や

太鼓の演奏と鑑賞の活動を関連させることで、お囃子の特徴を感じ取れるようにする。音楽づくりでは、演奏した太鼓のリズム伴奏にあうお囃子の旋律を作ろうという流れを大切にし、リコーダーをお囃子で用いられる笛に見立てて、『ラドレの音でせんりつづくり』の学習へとつなげていく。お囃子の雰囲気味わいながら、まとまりのある旋律をつくったり、つくった旋律をつなげて演奏したりと、お囃子に親しみながら音楽づくりができるようにする。この題材の鑑賞及び表現の活動を通して、日本の伝統的な楽器や郷土に伝わる音楽に親しみながら表現することの楽しさを味わわせたい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、我が国の郷土の音楽に着目し、学習指導要領のA表現(3) 音楽づくりア(ア)、イ(イ)、ウ(ウ)、B鑑賞ア、イを指導するものとする。

3 題材の目標

- (1) 日本の楽器の音色やリズムなどと曲想との関わりに気づき、即興的に音を選んで旋律をつくる技能を身に付ける。<知識及び技能>
- (2) 日本の楽器の音色やリズムなどの特徴が生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら祭り囃子を聴いたり、旋律のつなげ方による感じの違いに着目したりして、即興的に旋律のつなぎ方を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもったりする。<思考力、判断力、表現力等>
- (3) 祭り囃子を聴いたり、友達と協働して旋律をつくったりする学習を通して、郷土に伝わる音楽や楽器に親しむ。<学びに向かう力、人間性等>

4 教材について

- (1)「祇園囃子」京都府（締太鼓、能管、鉦）
- (2)「ねぶた囃子」青森県（桶胴太鼓、篠笛、鉦）
- (3)「神田囃子」東京都（長胴太鼓、締太鼓、篠笛、鉦）
- (4)ラドレの音でせんりつづくり

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	諳(ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。 諳(イ) いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴に気付くこと。 諳(ウ) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けること。 鑑賞ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。 鑑賞イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付くこと。
	〔共通事項〕 ア 音色、リズム、速度、旋律、拍 イ 呼びかけとこたえ
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・太鼓・笛・鉦の音色やリズム、速度を感じ取りながら聴く。 ・太鼓の音色を生かして演奏する。 ・日本の地域に伝わる祭り囃子を聴いたり、映像を見たりして、その雰囲気や特徴に気付く。 ・ラドレの音を使って旋律をつくり、つくった旋律を友達とつなげる。

6 題材の評価規準

※ 丸数字・・・全員の学習状況を記録に残す場面


	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①知 日本の楽器の音色や響きの特徴、リズムと曲想の関わりに気付いている。(鑑賞) ②知 締太鼓の音色やリズム、速度と曲想との関わりについて気付いている。(鑑賞) ③知技 音のつなげ方によって旋律の特徴や感じが変わる面白さに付き、三つの音とリズムを使って、即興的に音を選んで表現する技能を身に付けてつくっている。(音楽づくり)	思①音色やリズム、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴きとったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞) 思②旋律や拍、フレーズなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、即興的に音やフレーズのつなげ方を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。(音楽づくり)	態①お囃子で使われる楽器の音色やリズムの特徴などと曲想との関わりに興味をもち、郷土に伝わる音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取って聴く活動に進んで取り組もうとしている。(鑑賞) 態②お囃子の旋律づくりに興味をもち、ラ、ド、レの三つの音を使って旋律をつくる活動に、主体的・協働的に取り組もうとしている。(音楽づくり)
1時	①知 観察・発言・記述		
2時	②知 観察・発言・記述	①観察・発言・記述	
3時			①観察・聴取・記述
4時	③知技 記述・聴取		
5時		②観察・聴取・記述	②観察・聴取・記述

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P132 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画 (全5時間)



時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T：具体的な発問 C：児童の反応	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
	1次◆日本の楽器の音色やリズム、速さなどに注目しながら郷土に伝わる音楽を聴いたり、お囃子の雰囲気を感じながら唱歌を歌ったり太鼓を演奏したりする。		
	○音色やリズムに気を付けて2つのお囃子を聴き比べ、音楽の特徴や雰囲気を感じ取り、祭り囃子に親しむ。 ・祭り囃子について知る。 ・「祇園囃子」「ねぶた囃子」を聴く。 T：楽器の音は、どんな風に聴こえましたか。 C：ドンドン ピーチャララ	○DVDの映像で曲の冒頭部分を見て、お囃子の雰囲気や使われている楽器についておおまかに知る。 ○楽器の音をオノマトペで表し、次時の唱歌につなげる。 ○二つのお囃子を比較鑑賞し、気付いたことをワークシートにまとめ、児童の発表内容を教師が黒板に整理する。 ○比べながら聴くことで、リズ	ポイント①③ ◎【音色・リズム】を基に音楽の特徴や雰囲気を感じ取る。 たいこ 低い } 大きさによる 高い } 強い } 乾いた } かね 高い 響く 固い

	<p>カンカン</p> <p>T：それぞれのお囃子の雰囲気は、どんな感じですか？</p> <p>C：祇園囃子はゆったりしている。</p> <p>C：ねぶた囃子は、元氣にとびはねている感じがする。</p> <p>・DVDを活用し、それぞれのお囃子の雰囲気や使われている楽器について深く知る。</p> <p>・気に入った楽器の演奏をまねたり、音楽に合わせて踊ったりしながら聴く。</p>	<p>ムや音色の違いから感じる雰囲気の違いに気付けるようにする。</p> <p>○お囃子で使われている楽器ごとの映像で、楽器のつくりと音色の関わりや演奏方法について詳しく知る。</p>	<p>ふえ 高い 軽やか 優しい</p> <p>※ワークシート①参照</p> <p>ポイント③</p> <p>◎体の動きを伴った活動を取り入れることで、よりお囃子の雰囲気を感じ取り、親しめるようにする</p>
2	<p>○音色や速さ、リズムに気をつけてお囃子を聴き、お囃子の特徴や曲想の変化を感じ取る。</p> <p>・前時を振り返る。</p> <p>・神田囃子「投げ合い」を楽器の音色や曲想の変化に気を付けて聴く。</p> <p>T：締太鼓の音色やリズム、速さなど、どんなことに気付きましたか。</p> <p>C：とても高い音。 細かいリズムをたたいている。 だんだん速くなっていくよ。</p> <p>・神田囃子のよいところをワークシートに記入し、話し合う。</p> <p>T：神田囃子のよいところは、どんなところでしょう。</p> <p>C：楽しい気持ちになる。 だんだん盛り上がる。</p> <p>○締太鼓の唱歌を歌い、お囃子のリズムに親しむ。</p>	<p>○前時を振り返り、お囃子の雰囲気や使われている楽器について確認する。</p> <p>○ワークシートに締太鼓について気付いたことを記入するようにする。併せて、感じたことも記入させる。</p> <p>○DVDを活用し、祭りの様子や楽器について詳しく知れるようにする。</p> <p>○気付いたことと感じたことを関わらせて書くよう助言する。</p> <p>○唱歌の役割について、DVDも活用して学習できるようにする。</p>	<p>ポイント①</p> <p>◎締太鼓の【音色】高く軽い、【リズム】細かく弾んでいる、【速さ】だんだん速くなるのが、感じたこと（楽しくウキウキした気持ちになる、だんだん盛り上がっている）と関わっていることを押さえる。</p> <p>※ワークシート①参照</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・唱歌について知る。 ・唱歌を覚えて歌えるようになったら、締太鼓を演奏する真似をしながらリズムを打つ。 ・「神田囃子」の音源に合わせて唱歌を歌ったり、リズムで打ったりする。 ・唱歌について分かったことや感じ取ったことをワークシートに記入し、発表する。 <p>T：唱歌を歌うとどんな感じがしますか。</p> <p>C：音楽にのれる。 楽しい。 早くリズムを覚えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○締太鼓の唱歌を掲示し、始めはゆっくり練習する。 ○ペアで練習する。 ○長胴太鼓の音の拍を流しておき、拍にのって練習できるようにする。 ○唱歌を歌って鑑賞することで、より一層お囃子の音楽の特徴を感じ取りやすくなることを確認する。 ○実際の演奏では、お祭りの盛り上がる雰囲気の中、演奏者のアドリブや創意工夫をした演奏が行われることにも触れ、音楽づくりの活動につなげていくようにする。 	<p>ポイント②</p> <p>◎唱歌の特徴（楽器のリズムだけでなく音の感じも表している。唱歌を繰り返し歌っていると、自然に曲の感じをつかむことができる。）に気付かせる。</p> <p>ポイント⑤</p> <p>◎ICT端末で長胴太鼓の音の拍を流し、お囃子の雰囲気を感じながらペアで練習できるようにする。</p>
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○締太鼓と長胴太鼓を打ち、演奏方法や音色を知り、和楽器に親しむ。 ・本時で演奏する太鼓のリズムを唱歌で歌う。 <p>T：太鼓のリズムを唱歌で歌ってみましょう。</p> <p>T：唱歌を歌いながらリズムをたたいてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で学習した唱歌の役割について振り返る。 ○唱歌を覚えるまで練習したり、リズムを叩いたりし、自信をもって太鼓の演奏に臨めるようにする。 	<p>ポイント②</p> <p>◎唱歌を歌いながらリズムをたたくことで、お囃子の雰囲気を感じられるようにする。</p>
 <ul style="list-style-type: none"> ・太鼓の演奏方法について知る。 ・締太鼓や長胴太鼓を打つ。 <p>T：ペアになって太鼓をたたいてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードにお囃子の学習を通して感じたことを記入し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の範奏やDVDを活用し、視覚的に分かりやすく伝える。 ○ペアになって演奏を見合うとともに、ICT端末で互いの演奏を撮り合い、練習に活かす。 ○お囃子の楽しさについてクラスで共有し、次時の旋律づくりへの意欲を高める。 	<p>ポイント⑤</p> <p>◎録画した自分の演奏を見ることで、太鼓の打ち方やリズムについて客観的に振り返れるようにする。</p>

P99 指導計画作成の留意事項(4)

P99 指導計画作成の留意事項(2)

<p>4 (本時)</p>	<p>2次◆三つの音でお囃子の旋律を即興的につくり、つくった旋律をつなげて楽しむ。</p> <p>○ラ・ド・レの三つの音で旋律遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏に続いて、リコーダーで模奏する。 <p>(始め) 1小節1音→3音</p> <p>T:先生の後に続いて、先生の音をまねっこしてみましよう。</p> <p>T:音が増えると、どんな感じがするかな。</p> <p>C:動いている感じ 元気な感じ</p> <p>(慣れてきたら)</p> <p>2小節1音→3音</p> <p>T:終わった感じがするのは、どの音かな。</p> <p>T:同じ音をつなげると、ラからレにつなげるのでは、感じがどう変わるかな。</p> <p>C:同じ音が続くと滑らかで平らかな感じ。</p> <p>C:音が跳ぶと、元気に動いている感じ。</p> <p>T:音が高くなったり低くなったりすると、どんな感じがするかな。</p> <p>C:音が高くなっていくと盛り上がるような、明るい感じ。</p> <p>C:音が低くなると落ち着く感じ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数名の児童に教師役を担当させ、同じように模奏させる。 <p>○三つの音で旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラ・ド・レの三つの音と「せんりつをつくるリズム」を使い、旋律をつくる。 <p>T:3つの音をこのリズムにあてはめて、お囃子の旋律をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった旋律の音をワーク 	<p>○ラ・ド・レのカードを掲示し、その都度動かしながら、視覚的にも旋律を捉えられるようにする。</p>  <p>○前時で演奏した太鼓のリズムを伴奏として流す。</p>  <p>○ラまたはレで終わると終わった感じがすることに気付けるようにする。</p> <p>○旋律の動きによる感じ方の違いに気付けるようにする。</p> <p>○机間指導し、運指ができているか確認する。</p> <p>○リコーダーで何度も演奏し、試しながら気に入った旋律をつくれるようにする。</p> <p>○つくった旋律は、ワークシートの裏にメモさせる。</p> <p>ポイント④</p> <p>◎教師の範奏を真似て吹くことで、即興的に表現することの楽しさを味わわせる。その際、視覚的にも旋律を捉えることで、安心して旋律遊びの活動に取り組めるようにする。</p> <p>ポイント④</p> <p>◎設定した条件を基にした音の組み合わせによる感じ方の違いについて気付かせる。</p> <p>ポイント④</p> <p>◎児童にとってわかりやすく、適切な条件を設定する。また、思いついた考えは、実際に音を出して確かめさせる。</p> <p>※ワークシート例②参照</p>
-------------------	---	--

	<p>シートに記入する。</p> <p>T：どんな感じの旋律なのか、ワークシートに書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった旋律を旋律カードに書く。 ・つくった旋律を五線等を書く。 ・つくった旋律を発表する。 	<p style="text-align: center;">P99 指導計画作成の留意事項(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○旋律をカードにすることで、次時では操作しながらつなぎ方を工夫できるようにする。(2枚作成) ○ペアで発表させてから、全体の前で数名の児童に発表させるようにする。 ○音の組み合わせ方によってどんな風を感じが変わるか意見を出し合う。 	<p>※ワークシート例③参照</p> <p>◎発表し合うことで、自分では思いつかなかった音の組み合わせに気付いたり、感想を伝え合うことで自分では気付かなかった自分の作品のよさに気付いたりし、学習を深められるようにする。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○つくった旋律をリレーして楽しむ。 ・前時につくった旋律を演奏する。 ・始めは、ペアでつなげてみる。 <p>T：二人で4枚あるカードをつなげて、8小節の旋律をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループでつなげる。 <p>T：つなげる順番を工夫して、グループで1つのおはやしの旋律をつくりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでつなげた旋律を発表する。 ・まとめと振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○つなげ方について、いくつかの例を示し、選択の幅を広げられるようにする。 ○前時に作成した旋律カード(2枚)を並べ替えながら順番をいろいろ試して演奏させることで、工夫の仕方音楽の感じが変わることを理解できるようにする。 ○グループの演奏をICT端末で録画し、自分達の演奏を客観的に聴き、工夫につなげる。 ○繰り返しなど音楽の仕組みを使っていた場合は、押さえておく。 ○第3時で行った和太鼓を伴奏として加える。 	<p>※ワークシート例③参照</p> <p>ポイント⑤</p> <p>◎演奏を録画することで、組み合わせの工夫につなげ、協働的に学べるようにする。</p>

8 本時の学習指導について (4 / 5時)

(1) 目標

- ・音のつなげ方によって旋律の特徴や感じが変わる面白さに気づき、三つの音とリズムを使って、即興的に音を選んで旋律をつくる技能を身に付ける。<知識及び技能>
- ・お囃子の旋律づくりに興味をもち、三つの音を使って旋律をつくる活動に、主体的・協働的に取り組む。<学びに向かう力、人間性等>

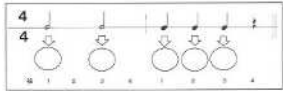
(2) 展開

○学習内容・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○ラドレの三つの音で旋律遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の範奏に続いて、リコーダーで模奏する。 <p>始め</p> <p>1小節 (1音→2音→3音)</p>     <p>慣れてきたら</p> <p>2小節 (1音→2音→3音)</p>   <ul style="list-style-type: none"> ・数名の児童に教師役を担当させ、同じように模奏する。 ・本時のめあてを知る。 	<p>○お囃子の雰囲気を出すため、前時で演奏した太鼓の音の拍を流しておく。</p> <p>○始めは、一音で短いリズムからはじめ、だんだんと音を増やしていき、本時の旋律づくりのリズムへつなげる。</p> <p>○視覚的にも捉えやすいよう、音カードを提示しながら行う。</p> <p>○始めの音や旋律の動きによってどう感じが変わるか意見を出し合いながら進める。</p> <p>○ラまたはレで終わると終わった感じがすることに気付けるようにする。</p>
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">ラドレの音で、おはやしのせんりつをつくろう</p> <p>○ラドレの三つの音で旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律をつくるリズムを確認する。  <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーを使って、4分の4拍子で2小節の旋律をつくる。 ・つくった旋律をワークシートに書く。 	<p>○前時に学習した太鼓の伴奏に合う旋律をつくることを伝える。</p> <p>○旋律をつくるリズムを手拍子で打って確認する。</p> <p>○ラまたはレで終わる。</p> <p>○教師の範奏を聴き、作り方をイメージするとともに、音のつなげ方による感じ方の違いに着目してつくるように伝える。</p> <p>○必ずリコーダーで吹いて確かめながらつくらせる。</p> <p>○ワークシートの裏にメモを取りながらつくらせる。</p> <p>○机間指導し、運指を確認する。</p> <p>○一番気に入った旋律をワークシート(表)に記入させる。</p> <p>○どんな感じの旋律なのかも記入させる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・旋律カードを2枚書く。 ・つくった旋律を五線譜等を書く。 ・つくった旋律をペアで発表する。 <p>○本時のまとめと振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードを記入する。 <p>・振り返りを発表する。</p> <p>・次時の予告を聞く。</p>	<p>☆③【知技】【観察・聴取・記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次時で旋律をつなげる際に使用するため、一番気に入った旋律を旋律カードに書かせる。 ○ワークシートを拡大掲示し、教師と一緒に進めていく。 ○もう一度リズムを確認する。 ○まずは一人で練習し、次にペアで発表し合い、感想を伝えあう。その際、ICT端末で録画し合い、自分の演奏も客観的に聴けるようにする。 ○数名の児童に学級全体の前で発表してもらい、それぞれの旋律の感じ方の違いについて意見を出し合い、音の選び方で感じ方が変わることを押さえる。 ○本時のめあてをもう一度確認し、めあてに対する振り返りができるようにするとともに、感じたことや分かったこと、頑張ったことなども記入できるよう声掛けをする。 ○数名の児童に振り返りを発表させるとともに、オリジナルのお囃子の旋律をつくることができたことを称賛する。 <p>☆④【態度】【観察・聴取・記述】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次時は、太鼓のリズムに合わせて本時でつくったお囃子のせんりつを4～5人のグループでつなげて演奏することを伝え、意欲を高める。
--	--

9 板書計画

ラドレの音で、おはやしのせんりつをつくろう

学習の流れ ①まねっこ遊び ②せんりつづくり ③ペアで発表 ④まとめ・ふりかえり	使う音 ㊦ ㊧ ㊨	やくそく ・4分の4拍子で2小節 ・5音えらぶ ・終わりの音は㊦か㊨ ・2つ以上の音を使う ・音を出してたくさんためす → 1つえらぶ
	リズム 	

大型モニター

※ワークシート②
を拡大掲示

祭りばやしのとくちょうをかんとろう

○おはやしについて気づいたことや感じたことを書きましょう。

曲	楽器	きこえた音	楽器の音色	かんじたこと
祇園囃子 (京都府)	たいこ	ドントン	高くかわいた音	ゆったりしたかんじで、かねの音が目立っている。
	かね	カーン、チーン	高く、ひびく音	
	ふえ	ヒュールル、ピー	やわらかいかすれた音	
ねぶた囃子 (青森県)	たいこ	ドコドコドンドン	ひくくて、ひびく音	元気よくはずんだかんじがする。
	かね	シャンシャン	高くキラキラした音	
	ふえ	ピーヒョロ	高く、少しかすれた音	
神田囃子 (東京都)	ながどう 長胴だいい	【しめだいいについて気づいたこと】 すごく高い音で、こまかいリズムをくり返		【かんじたことごと】 だんだんはやくなるので、お祭りで人がたくさん来てもりあがっている感じがする。
	しめだいい	したたいている。とても目立っている。だんだんはやくなっていた。		
	かね	②知を見取るところ 「おおむね満足できる」状況 (B) 聴き取ったこと・感じ取ったこと」を書いている。		
	しのぶえ	【神田囃子のよいところを書きましょう】 しめだいいがこまかいリズムでえんそうされているので、すごく楽しく元気になる。だんだんはやくなってくると、もっとお祭りがもり上がったかんじがして、ウキウキしてくる。		
		【唱歌について、わかったことやかんじたことを書きましょう】 音をこぼであらわしている。唱歌をおぼえてからえんそうすると、えんそうしやすく、リズムにのってえんそうできる。		

①知を見取るところ
「おおむね満足できる」状況 (B) 楽器の音色や響きの特徴と感じたことを書いている。

②知を見取るところ
「おおむね満足できる」状況 (B) 聴き取ったこと・感じ取ったこと」を書いている。

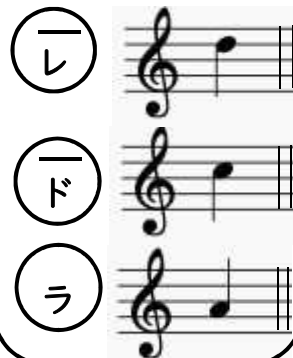
思①を見取るところ
「十分満足できる」状況 (A) 聴き取ったこと (音色・リズム・速さなど) と、感じとったこと (盛り上がってウキウキした気持ちになる等) を関わらせて、神田囃子よさや面白さについて書いている。
「おおむね満足できる」状況 (B) 聴き取ったことや感じとったことをまじえて神田囃子のよいところを書いている。

3つの音で、おはやしのせんりつをつくろう

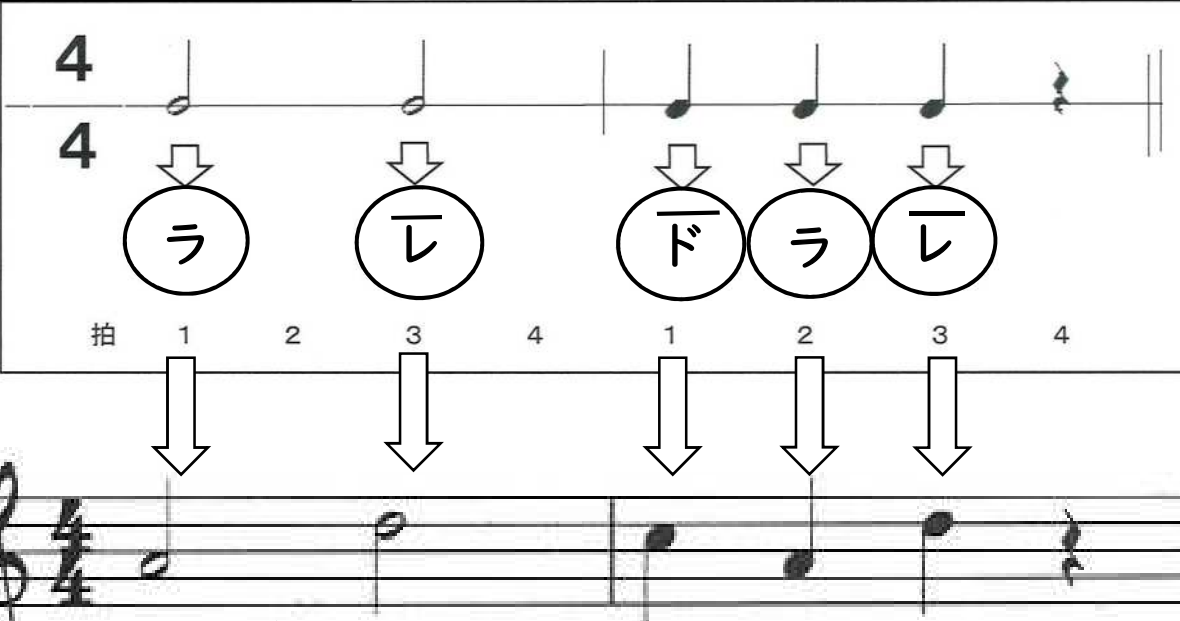
3年 組 名前()

○えらんだ音を下の○に書きましょう。

使う音



せんりつをつくるリズム



どんな感じ?

元気よくとびはね
ているかんじになる
ようにつくりました。

作品の記録については、児童の実態や指導のねらいに即して指導していく。

※学習指導要領 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い
2 内容の取扱いと指導上の配慮事項 (6) ウ
(学習指導要領解説 P134) 参照

③【知技】見取るところ

【十分満足できる (A)】

(満足できる)に加え、つくった旋律の特徴を捉えた説明を記入している。

【おおむね満足できる (B)】

設定した条件の中で旋律をつくることができる。

【努力を要する (C) と判断されそうな児童への働きかけ】

個別に声がけをし、教師と一緒に音を出してつくる。

裏

赤線は、試行錯誤の後、児童が最終的に選んだ旋律

表面の「どんな感じ？」→
「元気よくとびはねているかんじになるようにつくりました。」

○つくったせんりつをメモしましょう

①

4
4
レ
ド
レ
ド
ラ
レ
ド
レ
ラ
ラ
ラ

拍 1 2 3 4 1 2 3 4

②

4
4
ラ
レ
ド
ラ
レ
レ
ド
ラ
レ
ラ
ラ

拍 1 2 3 4 1 2 3 4

③

4
4
ド
ド
ド
レ
ラ
レ
ド
レ
ラ
ラ

拍 1 2 3 4 1 2 3 4

④

4
4
ラ
ド
ラ
ド
レ
レ
ド
ラ
レ
ラ
ラ

拍 1 2 3 4 1 2 3 4

4
4
レ
ド
レ
ド
ラ
レ
ド
レ
ラ
ラ
ラ

⑤

4
4
ラ
ド
ラ
ド
ラ
レ
ド
ラ
レ
ラ
ラ

拍 1 2 3 4 1 2 3 4

⑥

4
4
レ
ド
レ
ド
レ
レ
ド
レ
レ
ラ
ラ

拍 1 2 3 4 1 2 3 4

⑦

4
4
ド
ド
ラ
レ
レ
レ
ド
ラ
レ
ラ
ラ

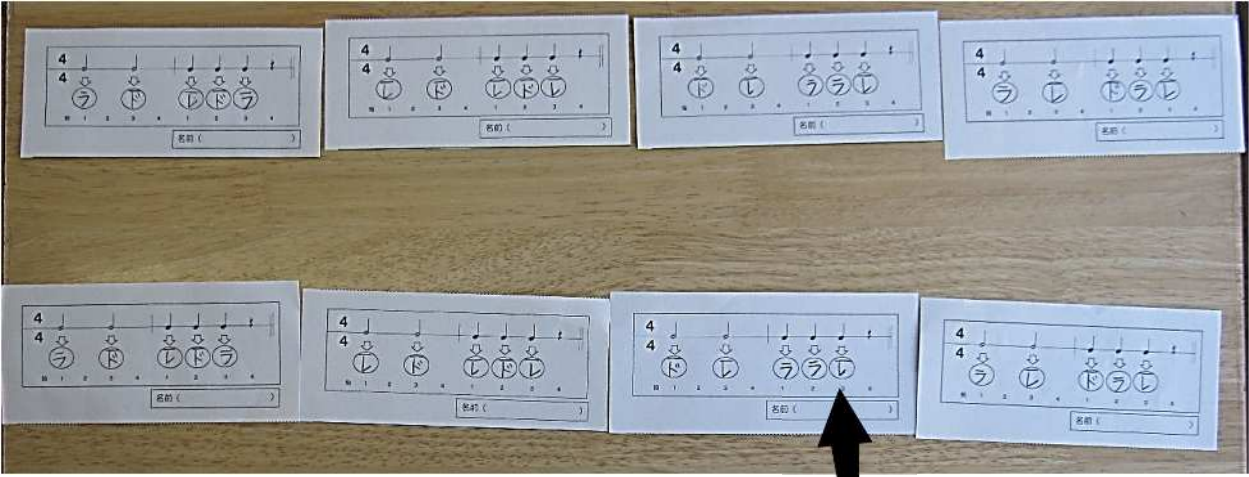
拍 1 2 3 4 1 2 3 4

〈旋律カード〉
と使い方の例

名前 ()

名前 ()

4時でつくった旋律を書いたカードを使って、5時ではグループごとにつなげ方を考える。



同じカードが2まいあるけど、どこに入れようかな。

次に続く感じにしたいから、終わりのレの音をラに変えてみよう。

どの旋律で終わろうかな。

※発展 常時活動でリズムパターンを行っている場合は、そのリズムに変えて組み合わせる活動も考えられる。

〈音楽づくり 教師用チェックリスト〉

		取組状況				
		知	技	思	粘り強く取り組んでいる様子	自己調整しようとしている様子
1	児童名	○	○		○いろいろなつなぎかたを、音を出して何度も確かめている	○
2	児童名	○			○	
3	児童名			試行錯誤していない	あきらめがち※1	△

【〈音楽づくり 教師用チェックリスト〉の記入の仕方と留意点】

知

十分満足できる……「○」を記入する。(例 音のつなぎ方によって旋律の感じが変わることに関心、発言や記述・態度に多く表れている。)

おおむね満足できる……空欄のまま (例 音のつなぎ方によって旋律の感じが変わることに関心、発言や記述・態度に表れている。)

努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

技

十分満足できる……「○」を記入する。(例 設定した条件の中で、即興的に音を選択したり、組み合わせたりして表現するための技能を身に付けている。)

おおむね満足できる……空欄のまま (例 設定した条件の中で、即興的に音を選択したり、組み合わせたりして表現するための技能をおおむね身に付けている)

努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

思

十分満足できる……「○」を記入する。(例 音楽づくりへの思いや (主に言葉による表現)、工夫したことなどが発言や記述等に多く表れている。)

おおむね満足できる……空欄のまま (例 音楽づくりへの思いや工夫したことなどが発言や記述等に表れている。)

努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

粘り強く取り組んでいる様子

十分満足できる……「○」を記入する。(例 学習内容に深く興味をもち、積極的に他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる。)

おおむね満足できる……空欄のまま (例 学習内容に興味をもち、他者と関わりながら、粘り強く取り組んでいる)

努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

自己調整しようとしている様子

十分満足できる……「○」を記入する。(例 グループの音楽を思いや意図を明確にしながらかつくるなど、積極的にグループ全体の学習を調整しようとしている。)

おおむね満足できる……空欄のまま (例 他者からの助言を参考にしたり、それぞれの表現のよさを認め合ったりしながら、自らの学習を調整しようとしている。)

努力を要する……取組状況の欄に、具体的な状況を端的に記し、適切な指導や助言を行う。

観察だけでは不十分……「△」を記入する。

※1 なお、〈音楽づくり 教師用チェックリスト〉に記した、「努力を要する」具体的な取組状況について、改善が見られた場合は、取り消し線で消し、「おおむね満足できる」(B) 状況と判断する。